

エージェントによる第二言語会話支援の研究
A Study of Conversational Agents for Supporting Second Language
Communication

学籍番号：201721704
氏名：GUO ZIXUAN

グローバル化に伴い、母語が異なる人々の間でコミュニケーションを行う機会が増えていく。非母語話者（Non-native Speaker, 以下 NNS）が母語話者（Native Speaker, 以下 NS）と会話を行う場合に、NNS の第二言語運用力が弱いこともあり、非母語話者と母語話者が対等に会話することが難しいことがある。中でも、非母語話者は発話権の取得に困難を抱えている。

一方、擬人化エージェント（Life-like Agent）、ECA（Embodied Conversational Agent）が普及してきた。人間であるユーザと擬人化エージェントの間に、多種多様なインタラクションが生まれる。HAI（Human-Agent Interaction）の分野で、ある具体的な課題を解決していくにはどのようなインタラクションを設計すればいいのかについて、様々な研究が進められており、特に対話的タスクの達成を目的としたエージェントが活発に議論されている。このとき、社会性を持ったエージェントが自然な会話仕組みに従い、人間同士の会話組織に適応するなどの考慮が必要である。

本研究は、これまでに NNS 支援エージェントを提案している。NNS 支援エージェントは、対面会話における参与構造と会話モデルを指針として提案され、話者の順番交替システムと現話者による次話者選択技法を利用し NNS に発話権を渡すことを目標とする。

本稿では、NNS 支援エージェントを用いた評価実験における、エージェントの介入効率や参加者の会話の変化などについて述べ、エージェントの有効性を検証した。その結果、極めて単純な介入様式のエージェントであっても会話への第 3 者として加わることで、一定の有効介入ができ、話者交替頻度が高くなったことが分かった。さらに、NNS 支援エージェントの評価実験から得られた知見を踏まえ、複数体エージェントによる第二言語会話支援手法を検討した。

研究指導教員：井上 智雄
副研究指導教員：三河 正彦